

環境文教委員会 送付 25-2

分煙社会実現に向けた陳情

受付年月日 平成25年3月15日

陳情書

(趣旨)

千代田区議会のご活躍につきましては、日ごろから色々と、伺っております。
今回は、千代田区における分煙に関わる環境整備をお願いするものです。

千代田区において生活環境条例（通称、タバコポイ捨て禁止条例）が施行されて10年が経ちました。

この条例を議決するにあたり、議会内には当初から喫煙を禁止すると同時に、喫煙場所の確保をしなければならないという意見があったと伺っています。そうした中で、とりあえず喫煙禁止を先行する中で、喫煙場所の確保については考えるということで禁煙が先行したものと思います。

しかし、その後は一部の公園内での喫煙は認められたものの、全体的な喫煙場所の確保が進んでいません。そのことで、数少ない公園の喫煙場所に喫煙者が集まり、公園の機能自体に支障をきたしていると聞いております。これは決して良いことではありません。

千代田区の条例は、喫煙自体を禁止したわけではわけではありませんが、禁煙条例と誤解されて全国に伝わったところがあります。そのために、喫煙者排除を助長してしまうという側面を有することになりました。

そもそも喫煙者を、犯罪者のごとく社会的に排除しようという風潮があること自体が問題です。タバコの臭いを含めて、喫煙を嫌う人がいることは事実です。そうした現実を無視して「どこでもタバコを吸わせろ」というものではありませんが、喫煙を習慣にしている人たちが存在しているのも無視できません。

喫煙を文化だと認識している人たちも、たくさんいます。

喫煙が健康に悪いとか、癌の原因であるとも言われています。受動喫煙が問題だという意見もあります。しかし、これらは科学的に検証されていません。私たちは各界の専門家による意見を伺った上で、そう判断しております。

千代田区議会におきまして、ぜひ、喫煙に関する科学的検証、実態調査や幅広い議論をしていただき、「千代田区として、タバコそれ自体をどう考えるのか」について、一定の整理をしていただきたく存じます。

また、千代田区における喫煙の在り方、分煙に関する環境整備の新たな方針を確立していただければ幸いです。（その過程で、私たち喫煙文化研究会のメンバーと、ざっくばらんな意見交換の場を作っていただきたいと存じます）

平成25年3月15日

千代田区議会議長 小林やすお 様